

相模川中流域中世銭貨の特性分析

The characteristic analysis on the medieval coin in the middle area on Sagami-river

EE19 關 健太郎
指導教員 山館 順

1. 緒言

厚木市依知地区には、以前より古代中世の遺跡が密集する地域として知られており、特に古墳時代の群衆墳が多数所在することで知られている。^[1]

本研究は文書史料にプラスして理工系の技術を用いることにより遠隔地間の中世地域経済における銭貨流通の実態についての手掛かりを得ることや、銭貨が出土した遺跡の経済的な特徴について探り、中世地域経済の実態把握について探求する。

2. 研究のアプローチ

中世社会を伝える資料は戦争や災害などによって多くが失われており、文書史料だけでは近世以前の状況を解明するには不十分である。この失われた分の埋め合わせとして本研究が目的とする物質資料の分析が必要となる。中世銭貨は国内外無数の遺跡から出土しており1枚の銭貨からも銭種の特定はもとより成分分析による製造法、産地同定の手掛かりなどの情報を引き出す事が出来る。^[2]

過年度までの研究内容は銭貨の成分と直径、銭貨の厚み、重量、形状観察の5つの計測方法であった。前年度では比重計測を加えることを今後の課題として挙げていた。そのため今回は銭貨の枚数を調整し、上記5種類の計測以外に比重の1項目を付け加えた6種類の計測を行った。また比較的検討の行いやすいデータベースを作成し、より詳細な遺跡の性格を調査する。

3. 結果

2で述べた計測結果のサンプルを表1、表2に示す。

表1 古銭 ID 13Cb01 のデータベース

古銭ID	13Cb01		古銭種	永楽通宝	
			提供元	神奈川県埋蔵文化センター	
出土地	神奈川県厚木市		成分分析結果(mass%)		
提供元No	24緋14		Cu	11.1	
	値	平均との差	Pb	59.8	
直径(mm)	25.16	0.15	As	19.7	
厚み(mm)	1.2	-0.09	Sn	5.91	
重量(g)	2.91	-0.82	Fe	2.18	
比重	7.95	-0.32	Si	1.27	

表2 永楽通宝の成分比較

資料番号	含有成分(mass%)				
	Cu	Pb	As	Sn	その他
13Cb01	11.10	59.80	19.70	5.91	3.45
13Cb02	49.00	29.10	10.70	7.00	4.19
13Cb03	66.90	15.30	6.22	7.03	4.50
13Cb04	45.40	27.70	11.20	7.14	8.56
13Cb05	70.90	14.20	5.45	7.39	2.04
13Cb06	56.40	21.20	8.81	9.49	4.10
13Cb07	53.00	27.30	9.54	8.46	1.67
13Cb08	62.20	19.40	7.30	7.21	3.88
13Cb09	60.80	19.10	7.99	6.60	5.53
13Cb10	48.40	30.90	11.70	6.34	2.69

4. 結論

同じ出土地の銭貨でも成分比率に差があり、比率の近似している例はなかった。この点から他地域のさまざまな成分比の銭貨が混入している可能性が高く、遺跡周辺地域の経済が活発であったと想定できる。

13Cb01 は鉛が多いため実際の流通よりも副葬品など呪術的な目的のものと考えられる。含有率による公鑄銭か私鑄銭かの線引きはある程度判別可能である。13Cb08 のその他に中国を主産地とするアンチモンが 0.322%含有していたため中国で生産された可能性がある。

また幅や厚さなどの規格がバラバラであったため本研究において重量は有効とはならなかった。

5. 今後の発展

中国を主産地とする成分が含有していたため、国内外の産地と何らかのつながりが存在する可能性があり、今後もっと試料を増やしていく必要がある。また周辺地域の中世に市場が設置された当麻市や無量光寺との関係についての検討を行ってきたい。

文献

- [1]厚木市,“厚木市史中世通史編,” p.838,pp.911-916,(December.1991)
[2] 櫻井晋一,“貨幣考古学序説,” 慶応義塾出版会, pp.21-26, pp.29-30,(September.2009)